

株式会社 ミタカ電機



代表取締役
吉本 登

長崎県
大村市松並1-941-1

1954年(昭和29年)設立
Tel 0957-53-3440

<http://www.waruzou.com>

液卵に殻を混入させない 割卵機を開発

カッターを用いて卵の殻を「切る」という柔軟な発想で、従来製品の問題点を克服。世界初となる割卵機の開発に成功した。

殻を混入させない割卵機

大量の卵を用いる食品メーカーでは、卵の殻を割って中身を取り出す割卵機が使用されている。その大半は、卵を小さなナイフ状の金具でたたいて割る仕組みである。割った後の液卵には殻が混入するため、取り除く手間がかかるうえ、衛生面においても問題があった。株式会社ミタカ電機は、卵を割る際に殻を混入させない世界初の割卵機「割蔵」を開発した。

「割る」から「切る」へ発想を転換

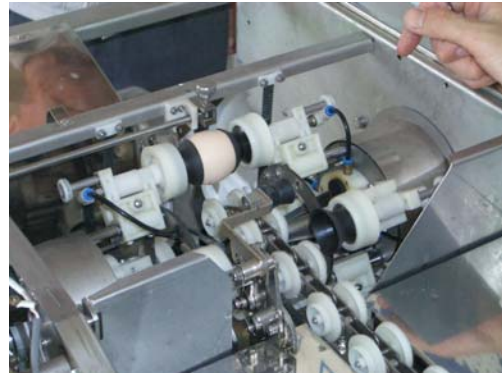
「割蔵」の秘密は、卵の殻を「割る」のではなく「切る」ところにある。具体的には、カッターを用いて卵の周囲に沿って殻だけを切断する。横向きにした卵の左右を二つの吸盤で挟み込み、吸盤同士の距離を卵と刃の距離に連動させ、卵に刃先が触れた状態で吸盤を回転させる。切断後、吸盤を左右に引っ張ると卵の中身が流れ出す。この仕組みには、5つもの特許が盛り込まれている。

蓄積されたノウハウを新製品の開発に活かす

殻を切る工具には、人工水晶の加工に用いるダイヤモンドカッターを採用。卵をぶれないように固定するために、真空ポンプを使用した。「割蔵」の開発に当たって、同社は、創業以来手がけてきた電子部品の加工や産業用機械の設計・製造の経験とノウハウを活かしている。



「割蔵」



卵を吸盤で挟む様子